日本・台湾の４者連携による「国際メディア・リテラシー」教育活動について

For educational activities, "International Media Literacy" by the four-party cooperation of Japan and Taiwan

楊　慕理、陳　彦龍、弘田由香、山崎真哉、
山本宏幸、田村康夫、紙矢健治

分野：377（国際学術交流）
キーワード：メディア・リテラシー、情報を評価・識別する能力、情報活用能力

Ⅰ．はじめに

平成28年は山口放送株式会社（KRY　以下、山口放送と略す）設立60周年にあたる[1)]。戦後の混乱を経て、日本が1952年4月にようやく連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）のよる占領統治が終了した直後に、放送事業の準備が始められ、昭和31（1956）年には、山口県初の民間放送として山口県下に向けて株式会社ラジオ山口（KRY）としてラジオ放送を開始し、つづいて昭和34（1959）年10月にテレビ放送を開始した。NHK山口放送局のテレビ放送は、同1959年の6月15日に放送を開始していることから山口放送テレビジョンの開局は、そのわずか3カ月半後であり、民間放送によるテレビ放送としては当然のことながら、山口県で最も古い歴史を持つと言える[2)]。この間、ラジオ・テレビ放送を通じて、山口県において放送法第1条の公共の福祉に適合する役割を果たしてきた。それは視聴者が主体的に教養を高め、生活にうるおいを感じうる文化的、教育的に重要な役割である。こうした厚みのある歴史に依って、その役割をさらに充実したものにする目的で、平成

１）山口放送株式会社ホームページ「山口放送のあゆみ」を参照されたい。
http://kry.co.jp/outline/

２）一般社団法人山口経済研究所「やまぐち経済月報」(2009.1）,p22-26.
http://www.yama-kei.com/pdf/kigyou_55_KRY.pdf

19（2007）年度から「情報を評価・識別する能力」あるいは「情報活用能力」を育成するためのメディア・リテラシー教育活動に取り組んでおり、いくつかの実績がある。本年（平成28）度は、徳山大学が2011年から実施しているOSP（B）に着目し、また台湾の大学および地上波の放送局との4者連携（山口放送・徳山大学・長榮大学・FTV民間全民電視公司）の形式による大学生のための国際メディア･リテラシーを提案、実施した。本稿は、このプロジェクトに取り組んだ筆者7人による実施報告である[3)]。

なお、今回の国際メディア・リテラシーの成果についての詳細は、次回の『徳山大学総合研究所紀要』（第39号）において紙幅をいただけるとのことで、その機会に紹介する[4)]。

Ⅱ．徳山大学「OSP（B)」について

台湾への研修は、毎年夏季休暇中に実施されている。平成23（2011）年に教務部予算により、まず「海外体験プログラム」（2011）が実施され、翌年の平成24（2012）年度より「OSP（B)」に科目化され、平成28（2016）年度まで続いている。なお、実施日数は、５～７日間の日程である。学生1名当たり5万円の補助を行っている。これまで計16名の学生が参加している。

3）徳山大学OSP（B）は、平成23（2011）年度に「海外就業体験プログラム2011台湾」として実施した後、翌平成24（2012）年度より、「OSP（B)」として夏季休暇中に集中授業を台湾で行う科目とした（2単位）。『徳山大学論叢』（第73号）などを参照されたい。https://www.tokuyama-u.ac.jp/local/eco_academy/ronso_pdf/ronso73/ronso73_kamiya.pdf

4）徳山大学総合研究所ホームページhttp://chaos.tokuyama-u.ac.jp/souken/kiyou38.html

（表1）台湾での徳山大学海外研修「海外就業体験プログラム」「OSP（B）」実施実績（2011-2015）

回数	研修内容および研究機関	研修参加者
1	「海外就業体験プログラム2011台湾」として実施（6日間） 研修機関：①台南市YMCA徳輝苑　②高雄市髄喜家園 ③伊甸基金会鳳山早期療育センター	参加者： 教員1名、学生2名　合計3名
2	「OSP（B）2012台湾」科目として実施（6日間） 研修機関：①FTV民視テレビ南部センター ②PTS台湾公共テレビ南部多機能スタジオ ③文化省衛武営芸術文化センター他	参加者： 教員1名、学生4名　合計5名
3	「OSP（B）2013台湾」科目として実施（5日間） 研修機関：①PTS台湾公共テレビ南部多機能スタジオ ②台中・新民中学教員との交流	参加者： 教員1名、学生1名　合計2名
4	「OSP（B）2014台湾」科目として実施（6日間） 研修機関：①遠東航空本社（空港セールス実習　社長対応） ②復興航空本社　③PTS台湾公共テレビ南部多機能スタジオ他	参加者： 教員1名、学生3名　合計4名
5	「OSP（B）2015台湾」科目として実施（5日間） ①ART101（台湾・中国に店舗を展開するヘアサロン） ②PTS台湾公共テレビ南部多機能スタジオ　③台湾横河 ※トップセールス研修として、周南市に本社がある株式会社西京銀行頭取　平岡英雄様の海外アテンドを体験する。	参加者： 教員1名、学生2名　合計3名

（備考）詳しくは「海外就業体験プログラム台湾（2011）実施報告」『徳山大学論叢』（73巻）、周南：徳山大学経済学会、2012年1月.（ http://ypir.lib.yamaguchi-u.ac.jp/tu/metadata/930）「徳山大学OSP（B）2012年度実施報告」『徳山大学論叢』（75巻）、周南：徳山大学経済学会、2013年1月、p29-44.（http://ypir.lib.yamaguchi-u.ac.jp/tu/metadata/941）などを参照されたい。

Ⅲ．メディア・リテラシーについて

メディア･リテラシーとは、中橋（2015）「メディア活用とリテラシーの育成」の中で、新聞、教科書、学校放送およびソーシャルメディア時代におけるメディア・リテラシーのイメージを詳述している[5)]。かつて、メディアは新聞、通信社、出版社、ラジオおよびテレビが大きな役割をおきたが、ネットによる高度情報化社会に入った今日においては、石倉（2003）のいう「大衆化のなかの情報化社会論」の中で「メディアとしての電子ネットワークとメディ

5）中橋雄「メディア活用とリテラシーの育成」『放送メディア研究』（No.12　2015），p127-148.（https://www.nhk.or.jp/bunken/book/media/pdf/2015_23.pdf）

ア・リテラシー論」を示しているように、ネットが次第に大衆化し、誰もが瞬時に大量の情報を得ることができる環境が出現すると、その情報から正しい情報を選び出し、活用する能力が求められるようになる[6)]。メディア・リテラシーとは情報を得る人間が主体的にそれを集め、理解し、必要な情報を選別し、その価値や真偽を判断する能力を引き出し、その真偽を見抜き、活用する能力のこと。「情報を評価・識別する能力」あるいは「情報活用能力」とも言われる[7)]。

Ⅳ．テレビ放送における国際メディア・リテラシーについて

Ⅳ-1．平成27年度日本民間放送連盟助成対象事業について

徳山大学が立地する周南市に本社を置く山口放送は、平成27（2015）年度に、一般財団法人日本民間放送連盟（略称「民放連」）が平成11年（1999）年度から実施しているメディア・リテラシー推進の助成事業「メディア国際交流！山口と台湾の大学生がテレビ番組制作に挑戦！～テレビの見方は日本と外国でどう違う？～」の採択を受けた[8)]。その目的は「山口県内の大学生が台湾の学生と協力して番組制作を行うことで、互いの国でのメディアのとらえ方、表現方法の違いを学びあう」こととし、OSP（B）2016参加者は、平成28（2016）年度の夏季休暇期間中に山口放送メディア・リテラシー担当者と共に台湾に出向き、台湾の大学と共同して、日本と台湾の大学生それぞれが同じテーマで番組を制作し、発表することを通じ、たがいの言語的、社会的、国際的認識等の差異を比較し、相互理解を進めることを内容とする画期的なものである。これまでの民放連の助成対象事業となったメディア・リテラシーの活動の例として、東日本放送、テレビ信州、東海テレビ放送、R

6）中橋雄大「大衆化のなかの情報化社会論」『社会科學研究』（第54巻 第4号）東京：東京大学社会科学研究所， 2003年3月，p 33-57。http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/dspace/handle/2261/15360

7）文部科学省「情報教育に関連する資料」教育課程部会・情報ワーキンググループ（平成27（2015）年11月24日）http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/059/siryo/__icsFiles/afieldfile/2016/02/10/1364829_03.pdf

8）一般財団法人日本民間放送連盟　助成対象事業ホームページを参照されたい。https://www.j-ba.or.jp/category/broadcasting/jba101049

ＫＢ毎日放送４局が、東京大学大学院情報学環メルプロジェクトとの共同で、各地区において「その番組の放送を体験することを通じてテレビに対する主体的な見方を育てるとともに、放送局員自身が子どもたちに教えることを通してメディアを学び直すということを目指した」取り組みなど、平成24年度以降、本プロジェクトを含め、助成対象事業は28プロジェクトある[9)]。国際メディア・リテラシーについては、管見の範囲では前例がなく、日本と台湾などの地上波放送局間の国際連携は、山口放送による取り組みが初めてのものである。

民放連は、その選定理由として「海外の学生と共に活動することが、現在起きているさまざまな出来事を勉強する大きなきっかけになる。学びを深めることが、メディア・リテラシーを高める次の一歩となる」とし、これまでにない取り組みを高く評価している。

山口放送はこれまで小学生や中学生、高校生および一般家庭を対象に、テレビにおけるメディア・リテラシー活動に取り組んできた。その特色は、年度ごとに、ことなる世代に情報・収集を通じて知り得た情報を理解し、その情報をわかりやすく他者に伝える能力育成であり、「メディアが発信する情報を主体的に読み解く力」の育成である[10)]。

なお、平成25年度に鹿児島市に在住する外国人を主体とし、その外国人が祖国へ帰省中の様子を取材し番組化したものを放送する南日本放送の「アジアん鹿児島ビデオジャーナル」のような例もある。日本人を主体とし、日本と海外の大学と地上波テレビ局が連携する本プロジェクトとは、まったく内容が異なるものであるが、海外をその国の出身者に取材させるメディア・リテラシーとしては参考となると思うのでその活動の模様については民放連のホームページを参照されたい。

９）一般財団法人日本民間放送連盟　助成対象事業ホームページを参照されたい。
https://www.j-ba.or.jp/category/broadcasting/jba101686

10）山口放送メディア・リテラシー実践プロジェクトホームページを参照されたい。
http://kry.co.jp/other/media/2007/
南日本放送　https://www.j-ba.or.jp/files/jba101195/2013メディアリテラシー実施概要（南日本放送）.pdf

Ⅳ-2. 国際メディア・リテラシー実施チームについて

筆者1（楊慕理）は、台湾・長榮大学人文社会学院大衆伝播学系主任・専任教授である。テレビジョン広告や映画、マーケティングの分野が専門である。筆者2（陳彦龍）は、筆者1（楊）と同じ学科の専任助理教授であり、テレビ放送のニュース、番組制作を専門とする。FTV民視に長く勤務した経験がある実務家でもある。筆者3（弘田由香)、筆者4（山崎真哉)、筆者5（山本宏幸)、いずれも山口放送テレビ制作局テレビ制作部、筆者6（田村康夫）は報道部にそれぞれ属する。筆者7（紙矢健治）は、徳山大学経済学部教授である。大学生は、日本チーム（徳山大学）４名と台湾チーム（長榮大学）それぞれ４名ずつからなり、番組制作を通じて取材したことをフィードバックし、完成した番組を見ることによって自他双方が、取材を通じて未知の事象を既知のものとするプロセスを相互に理解する内容である。なお、そのように日本の大学生が海外の大学生とともに日本と海外の地上波テレビ局が関わったメディア・リテラシーは前例がない。

Ⅴ. 台湾におけるメディア・リテラシーについて

台湾では、管見の範囲においては、大学段階におけるメディア・リテラシーの取り組みとして、公共電視文化事業基金会（PTS台湾公共テレビ　略称：公視）の「PEOPO校際深度報道」がある。この活動は、全国14大学のテレビメディア専門の学部学科の学生に本格的報道ドキュメンタリー番組「PeoPo 30Minutes」の制作・放送する機会を提供している[11)]。台湾の大学のテレビ・メディア関連専門課程（学科）の学生が、ニュースやドキュメント番組を主体的に制作し、それを地上波チャンネルやネット配信の場で放送するという国際的にも高度水準のメディア・リテラシー教育活動と言える。

11) 公共電視文化事業基金会（PTS台湾公共電視）ホームページ「PEOPO校際深度報道」を参照されたい。（財団法人感恩社会福利基金会賛助）http://www.peopo.org/events/Schools/

Ⅵ．台湾の地上波テレビ・メディアについて

台湾のテレビ・メディアは、普及率が82パーセントを超えるケーブルテレビにチャンネル供給を各局が行うスタイルが圧倒的である。地上波テレビ放送は、設立年度順に台湾テレビ（TTV)、中国テレビ（CTV)、中華テレビ(CTS)、民間全民テレビ（FTV）および台湾公共テレビ（PTS）の5局体制である[12]（FTV民間全民テレビについては以下、FTV民視またはFTVと称する)。総務省の資料によると、日本はケーブルテレビ普及率が33パーセント、衛星放送普及率が25パーセントである[13]。台湾は衛星放送の普及率が0.8パーセントであり、やはり100チャンネルにもおよぶケーブルテレビによる多チャンネルの状況にあるので、日本以上に厳しい競争の環境にある。日本とことなり台湾は、視聴率が分散し、1パーセント前後でも高視聴率と判断される。

Ⅶ．国際メディア・リテラシープロジェクト実施概要

筆者7（紙矢）は前述の通り、台湾高雄市を拠点として、平成23（2011）年度から、山口県と台湾をつなぐ実践授業として夏季休暇中に集中授業として「OSP（B)」を実施してきた。今回は、山口放送のメディア・リテラシーが民放連助成対象になったことを受け、筆者3（弘田)、筆者4（山崎)、筆者5（山本）が、山口放送の竹村昌浩取締役を通じて、徳山大学に連携の要請を行い、文書による正式な連携手続きが行われた。それに基づき、筆者7（紙矢）は、連携しているPTS台湾公共テレビの周傳久記者を通じて、筆者2（陳）に連携を要請し、筆者2（陳）が長くFTV民視に勤務したことから、同局の協力を得ることとなった。

本プロジェクトは、事前授業を進めながら、6月18日から20日までの3日

12）地上波放送を行っているのは、TTV台湾電視公司（1962年10月開局)、CTV中国電視公司（1969年10月開局)、CTS中華電視公視（1971年10月開局)、FTV民間全民電視股份有限公司（1997年5月開局）および公共電視文化事業基金會（通称：台湾公共テレビ、1998年5月開局）である。現在では、地上波以外のケーブルテレビ向け放送チャンネルを含めて4チャンネルから5チャンネルを持つ。

13）総務省ホームページ　各国のケーブルテレビ、衛星放送の普及率（2006年度）
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/policyreports/joho_tsusin/eizoukokusai/pdf/061012_1_si08.pdf

間、筆者３(弘田)、筆者４(山崎)、筆者５(山本)、筆者７(紙矢)が事前視察(ロケハン)を行った後、８月５日に竹村取締役がじきじきにハヤシ百貨を訪問し、協力要請を行った。(写真１から４までを参照されたい)

（写真１）事前視察　長榮大学（1）

（写真２）事前視察　長榮大学（2）

(写真3) KRY-FTV実務者間打合せ(1)

(写真4) KRY-FTV民視実務者打合せ (2)

実施は、９月12日から18日までの７日間であった。山口放送および長榮大学の指導のもと徳山大学学生４人と長榮大学学生４人がそれぞれチームをつくり、企画から取材、編集に取り組んだ。

Ⅷ. テーマ「ハヤシ百貨」の策定

事前視察のさいに筆者２（陳）より、ハヤシ百貨をテーマとすることが提案された。ハヤシ百貨は長榮大学が立地する台南市の中心部にある。明治末期に山口県佐波（現、山口市）に生まれ、その後台湾に渡った林方一が、昭和７（1932）年12月に創設した。当時のデパートとしては台湾最大の百貨店であり、終戦直後に閉鎖されるまで台南州のランドマークとして台南の人々に親しまれた。戦後は、建物が再利用された後、長らく閉鎖されていたが、

政府の「文化創意（文創と略される）」政策にあわせ「2013年度にハヤシ百貨の修復工事が完成し、台南市政府文化局により経営業務委託に係る運営業者の公募が実施され、公開選考の上でFOCUS（高青開発股份有限公司）が委託経営権を取得し、開業から81年後、ハヤシ百貨店は文化創作の新しいスタイルの百貨店として再生した」のである。台湾の人々の熱意で2014年に69年ぶりに復活・開業した[14)]。

文創政策は、台湾の六次産業化政策の一つであり、2009年5月から「創意台湾、文化創意産業発展方案」として推進されてきた。「2011年台湾文化創意産業発展年報」の資料によれば、2010年度における文創に関する市場は6,616億元におよんだ。2006年以降、はやい速度で成長しているが、高青開発のような民間のノウハウがあってはじめてこれらの実績があげられたことは言うまでもない[15)]。

事前授業の5回の事前授業において徳山大学の4人の学生が主体的にテーマを探した。グルメやショッピングなどストレートに視聴者に伝わるテーマがふさわしいということとし、8月の段階で林百貨のエピソードを討論し、最終的にテーマをハヤシ百貨に決めた（写真1、写真2を参照）。また、百貨店をテーマ、山口放送の番組内で紹介されることを考慮し、山口県ゆかりの人物によって創設されたハヤシ百貨が最適と判断した。このプロセスにおいては次回に詳述する。（なお事前授業の一部については写真5から8までを参照されたい）

（写真5）山口放送での事前授業（学生4名）

（写真6）山口放送での事前授業（指導者2名）

※写真5と写真6は、いずれも5月25日に実施した事前授業の様子である。

14）ハヤシ百貨公式ホームページ
http://www.hayashi.com.tw/page.asp?nsub=A8A000&lang=J

（写真7）アナウンサーによる技能講習（1）

（写真8）アナウンサーによる伝える技能講習（2）

※写真7と写真8は、いずれも9月7日に実施した事前授業の様子である。

Ⅸ．国際メディア・リテラシー実施陣容とスケジュールについて

本プロジェクトではでは、ハヤシ百貨の歴史を振り返り、台湾の人々が大切にしてきたもの、そして山口県の生んだ林方一の思いなどを映像化することをテーマとし、同時に長榮大学に学生4人の取材チームの編成を依頼した。ハヤシ百貨側は企画部の曽芃茵襄理をはじめ会社をあげての協力を得た。（本国際メディア・リテラシー教育活動陣容については表2を参照されたい）

（表2）「国際メディア・リテラシー」教育活動陣容

<table>
<tr><th>徳 山 大 学</th><th>山口放送株式会社</th><th>FTV民間全民電視（テレビ）</th></tr>
<tr><td>紙矢健治教授（経済学部）
学生4人</td><td rowspan="3">弘田由香ディレクター
山崎真哉ディレクター
山本宏幸カメラマン
（テレビ制作部）
田村康夫記者
（報道部）</td><td>黃揚俊執行主任
張重毅資深工程師
（南部中心）</td></tr>
<tr><td>長榮大学</td><td>高青開発股份有限公司</td></tr>
<tr><td>楊慕理主任（大衆伝播学系）
陳彦龍教授（台湾側指導）
学生4人</td><td>曾芃茵襄理（企画部）</td></tr>
</table>

（補足）所属等は10月1日現在のものである。

15）国家発展委員会「経建会新聞稿歴史資料区（2001～2014/1/21）」（2012年3月28日）
http://www.ndc.gov.tw/News_Content.aspx?n=C90548F2DB23E8B9&sms=AB593F5AE64A02BE&s=B17920AEAFD051E3　6,616億元は、日本円に換算すると約2兆1800億円に相当する（平成28年9月現在）。

Ⅸ-1. 長栄大学大衆伝播学系（マスメディア学科）

長榮大学は、台南市帰仁区に立地する台湾南部における私立大学であり、歴史ある台湾のキリスト教長老教会が運営する。日本統治時代に開学した長榮中学を基礎とし、戦後成立した私立大学である。1万人を超えるマンモス大学であり、とりわけメディア（テレビ・ラジオ）の領域においての定評がある。大学内には、大衆伝播学系が運営するFMラジオ局を擁し、またテレビ制作設備は充実しており、およそ400坪のスタジオを持ち、豊富なテレビ番組制作設備を持つ[16)]。

Ⅸ-2. FTV民間全民電視（テレビ）南部中心

FTV民視は、台湾最大の地上波局の一つであり、地上波1波を合わせて4チャンネルを擁する。ニュース専門チャンネル「民視新聞台」は、その正確さで絶大な信頼を集める。平成9（1997）年のテレビ・メディアの報道規制の完全撤廃を機に創業し、台北市および高雄市を拠点とする全国波である。南部中心は、高雄市三民区にあり、スタジオおよび放送センターを持つ[17)]。

Ⅸ-3. 高青開発股份有限公司

大規模な商業施設「FOCUS」を運営する会社である。最近では、中国での百貨店展開が話題を呼んでいる。卓越した企業として、また公益性の高い文創・保存分野において多くの貢献がある。とりわけ平成26（2014）年度に運営を引き受けたハヤシ百貨のほかにも、台南州知事官邸の復活・開業にも力を注いでおり、台湾の文化財を復活・運営に対するその努力は台湾の国内外において極めて高い評価を得ている[18)]。

Ⅸ-4. 国際メディア・リテラシー実施について

表2のように、9月13、14日の2日間においてハヤシ百貨を取材する予定で

16）長榮大学　http://www163.cjcu.edu.tw/zh_tw/

17）FTV民視　http://www.ftv.com.tw/

18）Focus時尚流行館 http://www.focusquare.com.tw/
中国時報ホームページ http://www.chinatimes.com/newspapers/20130704000591-260107

あったが、猛烈な台風14号が高雄市および台南市を中心とする南台湾を直撃したことから14日は安全のため、学生と取材チームは宿泊先で待機とし、13日に取材した内容の編集日とした[19)]。

実施の様子については、表3および写真9から写真14までを参照されたい。

（表3）国際メディア・リテラシー実施スケジュール（平成28年9月実施）

日　時	内　　容	備　　考
9月12日（月）	福岡空港国際線ターミナル3階に18：20集合 BR119便20：20福岡発、高雄着22：10着	エバー航空 （いずれも現地時間台湾時間は日本時間より1時間遅れ）
9月13日（火）	10：00長栄大学訪問 ・校長　李泳龍教授を表敬訪問 ・学部長　温振華教授（歴史学者）より林百貨の大枠の歴史について聞く ・人文学部大衆傳媒学系主任　楊慕理教授・陳彦龍助理教授および学生と合流し、同学科スタジオ・テレビ機材室などで打ち合わせ 12：00　山口放送・徳山大学歓迎午餐会（李泳龍校長主催） 14：00　ハヤシ百貨取材、曾芃茵襄理対応総経理（社長）表敬訪問。店内外を撮影 夕方、林百貨元従業員（男性）を取材	高雄市内から高速鉄道および在来線の列車で移動
9月14日（水）	終日取材の予定であったが、スーパー台風14号の直撃により、宿舎で待機。編集作業。	高雄市
9月15日（木）	10：00ハヤシ百貨にて撮影	台南市
9月16日（金）	10：00長榮大学において編集作業	台南市
9月17日（土）	15:30FTV民間全民電視（テレビ）南部センターにおいて講評会を実施	高雄市
9月18日（日）	午前中は自由行動。 正午にホテルをチェックアウト 高雄小港国際空港へ移動 BR120便15：30高雄発、福岡19：20着 到着後、解散。	いずれも現地時間

（補足）9月14日（水）は、台風14号の直撃を受けて、高雄市と台南市全域は、臨時休校・休業の宣布がなされたのを受けての宿泊先での待機となった。

19）AFP通信（2016年9月15日）　http://www.afpbb.com/articles/-/3100903
CNN（2016年9月15日）　http://www.cnn.co.jp/world/35089084.html

（写真9）長榮大学李泳龍校長（後列左から7番目）表敬訪問

（写真10）徳山大学学生ハヤシ百貨取材

（写真11）長榮大学学生ハヤシ百貨取材

（写真12）FTVでの鑑賞・講評会（1）
中央はFTV張重毅資深工程師

（写真13）FTVでの鑑賞・講評会（2）

（写真14）FTVでの鑑賞・講評会（3）

X．国際メディア・リテラシーの成果と関連報道について

本プロジェクトの成果として、徳山大学４人および長榮大学４人による５分あまりの番組が制作され、9月17日午後3時半からＦＴＶ民視南部センタースタジオにおいて、同局の黄揚俊執行主任の指導のもとで、たがいの成果を鑑

賞しながら、そのちがいを話しあう機会を得た。また、同局の関係者から制作した番組に対する講評をしていただいた。この成果については、11月7日および8日の山口放送の番組「熱血テレビ！」において放送された。さらに現地での関連報道については、FTV民視のニュースで放送され、PTS台湾公共テレビのプラットホームにおいてインターネット配信された[20)]。その他に、中華日報、台湾時報など新聞メディアに大きく取り上げられた。

Ⅺ. おわりにかえて

本稿は、山口放送が民放連のメディア・リテラシー推進助成事業の採択を受けて、徳山大学、長榮大学、FTV民視と連携で実施した国際メディア・リテラシーの概要である。山口放送、徳山大学、長榮大学、FTV民視の連携により、またハヤシ百貨を運営する高青開発股份有限公司の全面的な協力を得て、今回の国際メディア・リテラシーは所期の成果をあげたと考える。本稿は実施概要の報告を内容とし、本プロジェクトの成果については、前述の通り次稿において紹介したいと思う。

謝　辞

今回は、FTV民視南部中心の執行主任の黄揚俊先生、資深工程師の張重毅先生をはじめ皆さまにお世話になりました。黄主任および張先生には2012年にもニュース制作実習をお願いしたことがあり、長年のご厚情に心から御礼申し上げます。PTS台湾公共テレビ高雄市の皆様にも土曜日（9月17日）の午前中にもかかわらず、表敬訪問に応じていただいた。とりわけ9月14日（火）は、スーパー台風14号が直撃したさいは、宿泊先の黄佐華董事長が参加者の参加者の安全に細心の注意をはらってくださった。黄董事長には、編集用のスペースと機材を提供していただき、いたれりつくせりの配慮を賜りました。

20）FTV民視　ホームページ
http://news.ftv.com.tw/NewsContent.aspx?ntype=class&sno=2016913U12M1
PTS台湾公共テレビ　PEOPO新聞ホームページ
https://www.peopo.org/news/319319

徳山大学教務部の末雅彦部長には、プロジェクト全体の円滑な実施のためにお力をおかしいただいた。徳山大学レスリング部監督（学生支援センター長補佐）守田武史様には、部員２人の参加をご快諾いただき、こころから感謝いたしております。

この稿をおわるにあたって、民放連および山口放送の竹村昌浩取締役、テレビ編成部の藤村剛様をはじめお力添えいただいた放送関係の皆さまに心からの御礼を申し上げたいと思います。（一同）

【参　考】

（書籍）
陳秀琍『林百貨：台南銀座摩登桟楼』台南：台南市政府文化局、2015年12月初版一刷。

（ホームページ）
国家発展委員会　http://www.ndc.gov.tw/Default.aspx
長榮大学　http://www163.cjcu.edu.tw/zh_tw/
民視FTV　http://www.ftv.com.tw/
総務省ホームページhttp://www.soumu.go.jp/
東京大学社会科学研究所　http://jww.iss.u-tokyo.ac.jp/
一般社団法人山口経済研究所　http://www.yama-kei.com/
一般社団法人日本民間放送連盟　https://www.j-ba.or.jp/
NHK放送文化研究所　https://www.nhk.or.jp/
AFP通信　http://www.afpbb.com/
CNN　http://www.cnn.co.jp/